

日本航空株式会社所属
ボーイング式747-200B型JA8114
に関する航空事故報告書

昭和56年4月27日

航空事故調査委員会議決（空委第26号）

委員長	八田桂三
委員	榎本善臣
委員	諏訪勝義
委員	小一原正
委員	幸尾治朗

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747-200B型JA8114は、昭和56年3月31日、同社の定期413便として、アンカレッジ国際空港を出発しコペンハーゲン国際空港に向け飛行中、公海上空で旅客1名（日本国籍男性59才）が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

昭和56年4月8日 事実調査

1.3 原因関係者からの意見聴取

昭和56年4月8日 意見聴取

2 認定した事実及び認定した理由

JA8114は、昭和56年3月31日05時57分（日本標準時、以下同じ。）、旅客364名、乗組員19名（運航乗務員3名、客室乗務員16名）がとう乗し、アンカレッジ国際空港を離陸し、

330001

巡航高度37,000フィートでコペンハーゲン国際空港へ向け飛行中、同日11時40分ごろ、旅客の1名が洗面所より自席に戻る途中の通路に突然倒れ、うつ伏せの状態で見失った。

客室乗務員は、直ちに通常の救急処置（酸素吸入、着衣の緩め及び保温等）を実施して、旅客の中の医師3名に援助を要請した。

医師は、心臓マッサージ等所要の処置を実施したが、12時05分ごろ、脈拍、呼吸、瞳孔検査等により当該旅客の死亡を確認し、死因は心臓麻痺と診断した。

J A 8 1 1 4は、当該旅客の死亡時にノルウェー国トロンハイム北約700キロメートルの公海上空にあったが、予定通り飛行して14時03分コペンハーゲン国際空港に着陸し、デンマーク国担当官により検死が実施された。

3 結 論

原 因

本事故は、航空機が航行中、旅客1名が急性心不全により死亡したことによるものと推定される。

330002